

足助高で「総合的な探求の時間」



講演する新渡戸文化高の山藤副校長(右)と生徒ら＝豊田市の足助高で

授業で東京の高校生と交流

豊田市岩神町の足助高校で二十五日、生徒百五十六人が「総合的な探求の時間」の授業で、東京都にある新渡戸文化高校の高校二年生たちと交流した。

同授業は地域の魅力や課題を探す目的で四月から始まった新学習指導要領に合わせた取り組み。他校に先

新渡戸文化高は毎週水曜日に各教科の授業のない

「クロスカリキュラム」という日をつくり、生徒一人一人の探求活動に充ててい

る。講演には同校二年の市村珠久さん(右)、美野朱香さん(左)、山下日菜さん(中)が登壇。SDGsの研究や、三重県熊野市の特産品を使った町おこし企画など、探求学習の成果を披露した。

新渡戸文化高の山藤副校長は「大人に頼らず、やりたいことを仲間と笑顔で探す良い機会」とアピールした。市村さんは「私もこの活動でやりたいことを見つけた。足助高にも輪が広まれば」と期待を込めた。

足助高一年の鳥居侑真さん(右)は「自由な時間が学校にあるのは、良い取り組みだと思った」と話した。

足助高は今後もフィールドワークやゼミ形式で探求学習を進める。夏には足助地区の魅力を発掘する活動に取り組むという。

(大谷津元)